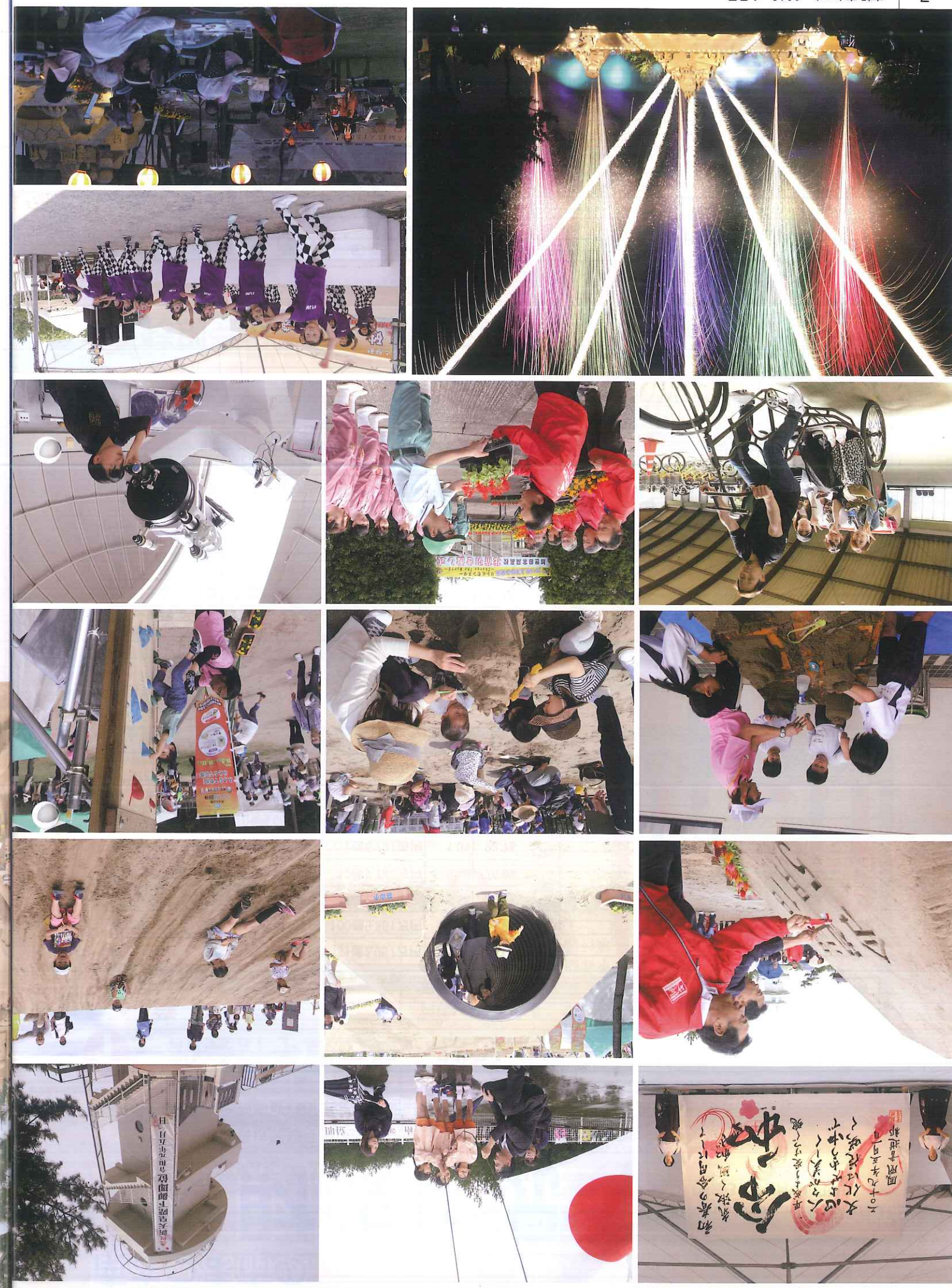

8万2000人を魅了
第32回吹上浜砂の祭典

今年で第32回を迎えた「吹上浜砂の祭典」。今回の砂像テーマは「ワールドキャンスター ～Change The World～」。キノの見方一つですべてのものが新鮮に感じられるような日常にありふれた風景や生き物を巨大かつ繊細な砂像で表現することで「日常」が「非日常」に感じられる世界観を創り出しました。

今年は、市内外の砂像制作団体が参加した国内選手権大会などで、加盟された約100基の砂像と、加盟手権大会や国内各地の砂像愛好家が参加された「日常潤高校の生徒が我が培したサルビアやマリーゴールドがお出迎えした。砂像制作体験のほかに、今回は新たに、砂の滑り台や砂のトンネルが登場、子どもたちは普段とは違う遊び場に大興奮の様子でした。

新元号『令和』が施行される前日の4月30日には、前夜祭のオープニングで鳳凰高校書道部が『令和』を書くパフォーマンスを披露し、新元号施行日の5月1日には新天皇陛下のご即位と改元を祝う式典が開かれ、高橋保育園の園児3人が国旗を掲揚し、本坊市長と本市と姉妹都市盟約を結ぶ北海道旭川市の西川市長が砂像に刻まれた『令和』の文字に仕上げのコテを入れました。

ドメイン広場では創作体験、ハンドメイド作品等の展示販売、ミニライブのほか、鳳凰高校の生徒が企画段階から参加した砂カフェも好評でした。（P11関連記事）

また、セカンドライフシリーズの期間も多くの観光客が来場し、T-J(ティージェイ)ホール（25日）、砂場のビアガーデン（25日・26日）、砂場のビアガーデン（26日）では、お目当ての商品の購入や、ライトアップされた砂像を見ながら、思い思いの時間を愉しむ来場者の姿も見られました。

砂像文化の発信拠点となる「吹上浜砂の祭典館」。砂の祭典の開催に先駆けて、4月22日には海外招待作家の4人が津学園を訪れ、5年生の児童19人と盆栽砂像作りを通じて、砂像文化の楽しさを伝え、交流しました。5月22日から25日には、友好交流都市の中国・宿遷市から視察団が訪れ、砂像制作を体験し、現地での砂像を展示するイベントの実施に意欲を示しています。

南さつま市 Sand & Flower Festa 吹上浜 砂の祭典 × 高校生たちの挑戦

今年は**新しい風**が吹いた。企画・運営のマンネリ化、関係人口の減少、人材育成、行政頼り、目的の共有など、課題が山積の吹上浜砂の祭典。そうした課題を一つでもクリアして、継続性のあるイベントへ進化することを狙いに、企画・運営に鳳凰高校の２年生（企画当時は１年生）が、関わってくれた。この成果は、視点が違う課題を見つけられたと共に、無限大の可能性があることを示してくれた。

目的

砂の祭典において、観光協会の女性チーム mojoca が委託されている「砂カフェ」「ビーチマルシェ」を入口に、砂の祭典の各セクションのボランティアを経験してもらい、高校生目線からの企画や課題点等を出し、次年度の砂の祭典の磨き上げに繋げる。

活動内容

－　砂の祭典に対する企画案をプレゼンし、14 案の中から具体的に実施　－

①「砂カフェ」メニュー考案　〔令和生まれの！「サンドッグ」～南さつまの四重奏～〕

・本市の特産品ラッキョウなどを使ったソースや長命草を入れたパンを使い、ホットドッグを生協コープ加世田店、mojo-cafe、食堂勝八の協力で商品化した。四重奏には、市の特産品であるラッキョウ、トマト、カボチャ、長命草の調和を楽しんでもらいたい願いが込められている。

②「砂カフェ」スィーツ考案　〔サンドーナツ〕・・・ファミリー層をターゲットにした食べやすく、本市の特産品のカボチャ等を入れた丸形ドーナッツを SUNSEA5 の協力で商品化。

③タピオカ入りドリンクの提案・・・若い層にヒットする「タピオカ入りミルクティー」

④砂を使ったワークショップ、土産の提案・・・本市でカラーサンドアートに携わる「happiness」の宮下氏の協力で「砂のキーホルダー」作りのワークショップ。

⑤砂の祭典イベント班関連運営補助、セカンドステージ「謎解き」イベントの実施

課題・成果

今回のプロジェクトを体験した結果、コミュニケーション能力があがった、自ら判断することができるようになった、素敵な大人に出会うことができてよかったなど、印象深い感想が沢山挙がってきた。今回のプロジェクトの課題と成果を検証し、地元の学生が関わることのメリット等を運営側が受け止め、コーディネートする大切さを学ぶことができた。

砂の祭典の開催意義を考える中で、加世田常潤高校のオレンジジュースも砂カフェでは人気だったことから、砂の祭典を若い世代のチャレンジの場とすることも、未来への投資に繋がると感じた。

「ありがとうの価値」

2年9組　新山　のりみ

私は吹上浜砂の祭典の有償ボランティアに参加した。「砂カフェ」というブースで企画・運営から携わり砂カフェに参加することをとても楽しみにしていた。一方で、その他のブースでボランティアをすることに果たして意味があるのか？と疑問にも思っていた。

期間中は真夏日のように暑く、「お金がもらえるのなら頑張ろう」と自分を励ましていた。そんな中で、子ども達にスタンプラリーのカードを配るボランティアを行い、そこでたくさんの子ども達から「ありがとう」と言われた。その瞬間、お金を得るためにやっていたボランティアが「ありがとう」という一言がつくことによってお金以上の価値を添えられたような気がした。私は以前から無償ボランティアをする人たちを見て、なぜ無償でボランティアが出来るんだろうと疑問を持っていた。しかし、今回のボランティアを通じて少しわかった気がする。「ありがとう」という言葉は人の心を動かす大きな価値があるということを。そしてその「ありがとう」が私を動かす原動力になっていたということを。たくさんの「ありがとう」を来場してくださった方々にこの紙面で伝えたい。

※有償ボランティア・・・交通費程度を支給し運営補助を行う

5月11日、坊泊漁協が坊津町坊港の水揚げ場でキビナゴの販売会を行い、新鮮なキビナゴを求めて多くの市民が訪れました。

4月29日、道の駅きんぽう木花館春祭りが開催され、新鮮な野菜やくだものなどの販売、金峰お田植え踊りなどのステージイベントも行われました。

5月12日、サンドクラフト杯争奪中学校春季ソフトテニス大会が加世田運動公園庭球場で開催され、南薩地区の中学生がペア団体戦で熱戦を繰り広げました。

4月29日、片浦集落（笠沙地域）の敬老会が開かれ、おもてなしを受けた高齢者はブリの刺身に舌鼓を打ち、舞踊などに拍手を送っていました。

農園オーナーがラッキョウを収穫

5月12日、ガンバリーナらっきょう村収穫祭が加世田高橋の海浜温泉ゆうらく横ほ場であり、オーナーなど約70人が参加しました。1区画20平方㍍のほ場には、例年よりも大きいラッキョウがなっており、親戚と一緒に来ていた藤田蒼亮（そうすけ）さん（清和小1年）は「ラッキョウを掘るのは楽しい」と一生懸命収穫をお手伝いしていました。また、加世田地域生活研究グループの会員がラッキョウのベーコン炒めやかき揚げなどをふるまい、会員に作り方を聞く参加者の姿も見られました。

看護師への第一歩　鳳凰高校で戴帽式

4月27日、鳳凰高校で戴帽式が行われました。これから始まる医療機関での実習に向かう看護学科基礎課程の2年生202人が、看護師のシンボルであるナースキャップを戴き、キャンドルを手にナイチンゲール誓詞を唱え、看護師としての使命を心に刻みました。戴帽生代表の久保田茉衣子（まいこ）さんは、「これからはAIの時代ですが、患者さんを救えるのは私たち『人』です。みんなで支えながら前進していきます」と誓いました。